

★祝・富士山世界文化遺産登録★

2013年6月、富士山は日本で17番目（文化遺産では13番目）の世界遺産として登録されました。「信仰の対象と芸術の源泉」として登録された富士山の構成資産は、残念ながら三島にはありません。しかし、三島市民は昔から富士山を身近に感じながら生活を送っています。第22号のエコライフみしまでは、この富士山の世界文化遺産登録を記念して、「三島と富士山」をテーマにしました。ここで紹介できるのは三島と富士山の関わりのごく一部です。今回の世界文化遺産登録をきっかけに、より多くの人に富士山の恵みを再認識していただけたらと思います。

○三嶋大社と富士山

三嶋大社の主神である大山祇命（おおやまづみのみこと）と、富士山本宮浅間大社や三島市の浅間神社の主神である木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）は親子の関係であることから、三島と富士山もまた親子であるという伝説が生まれたようです。富士山の噴火の際には大山祇命に祈りをささげ、木花開耶姫命に噴火を鎮めるように頼んでもらったともいわれています。

○三嶋大社

古くより三嶋大社は伊豆の一の宮として信仰を集め、大山祇命、事代主命（ことしろぬしのみこと）の二柱を主神としています。三嶋大社の成立には伊豆諸島や伊豆半島の火山活動が密接に関係しているといわれ、平安時代に伊豆諸島が噴火と造山を繰り返した際には、「これは山の神である大山祇命の御業である」とされました。このため朝廷は、三嶋大社の神階を上げることで、大山祇命を鎮めようと努めました。

○浅間神社

楽寿園の正門南側にある三島の浅間神社は、三嶋大社に次ぐ伊豆の二の宮で、木花開耶姫命、波布比売命（はぶひめのみこと）の二柱を主神としています。このうち、大山祇命の娘である木花開耶姫命は噴火を始めた富士山に登り、これを鎮め人々を救ったという伝説があり、この伝説をもとに、富士山の噴火を鎮めるために木花開耶姫命を祭神として祀ったといわれています。なお浅間神社は、約1万年前の富士山の噴火の時、ここで溶岩の流れが止まったので、岩留浅間（いわどめせんげん）とも呼ばれています。境内には溶岩塚や縄状溶岩があり、その中に足跡のようなくぼみ



浅間神社

を持つ溶岩があります。このくぼみは、主神である木花開耶姫命が溶岩の流れを食い止めた際につけられたものといわれています。

鳥居をくぐった左側には、小浜池と同じように富士山からの雪解け水が湧く池があり、富士山に向かう人々はこの池で禊を行い、浅間神社に参拝・安全祈願してから登山していました。当時はここから富士登山道がはじまっていた。この道は富士山の表登山道として栄えた道として伝えられています。現在、浅間神社の境内にあった富士登山道はなくなってしまいましたが、一部が楽寿園正門西側に遊歩道として残されています。



溶岩塚にある
足形のようなくぼみ

○富士登山道開山式

富士登山道開山式は富士山への登山者を歓迎するとともに、登山者の安全祈願のため毎年7月1日に行われています。近年は三島市観光協会が主体となり、三島市と三島商工会議所の共催のもと、三島駅前広場（南口）で浅間神社氏子会婦人部による農兵節の奉納踊りなど、盛大に開催されています。



楽寿園正門西側にある
昔の富士登山道

○富士山に由来した三島の地名・町名

三島にある地名・町名は富士山に由来したものが多くあります。ここで紹介する以外にも富士山に由来した名称があるかもしれません。このような地名・町名からも富士山を身近に感じることができます。

泉町	富士山からの湧泉が多いことと、言葉の響きの良さから名付けられたといわれています。
佐野見晴台	富士山及び駿河湾が一望に見晴らせる高台にあることから名付けられたといわれています。
三恵台	富士山、箱根山、そして駿河湾の三つの素晴らしい眺望に恵まれた高台にあることから名付けられたといわれています。
玉川	富士山の清冽な雪解け水が流れる玉川池（丸池）を水源とする川の名からきています。
富田町	富士山の眺めがすばらしいことから、町名の頭に富士山の“富”を重ねて豊かで富んだ町になることを願って名付けられたといわれています。
富士ビレッジ	富士山を望めることからつけられ、昭和48年（1973年）当時全国で唯一のカタカナ町名として話題になりました。
富士見台 東富士見 西富士見	文字通り美しい富士山が見える町ということで付けられた町名といわれています。
芙蓉台	芙蓉峰は富士山の雅称（風流な呼び方）であり、富士山の眺めがすばらしいことから付けられたといわれています。

○三島から富士山を詠んだ句・短歌

霧しぐれ富士を見ぬ日ぞ面白き

松尾芭蕉

不二見えてあの世この世の若葉摘む

龍澤寺 中川宋淵老大師



三島から見る富士山は真ん中にある宝永火口が特徴的です



国道1号線沿いにある芭蕉の句碑

晴れてよし曇りてもよし富士の山
もとの姿は変わらざりけり

山岡鉄舟

富士山を間近に望み、また清らかな湧水に恵まれた三島は、俳人や歌人だけでなく、多くの作家や詩人にも愛された地です。富士山や湧水に触れた作品を片手に、街を歩いてみてはいかがでしょうか？

知っていますか？～三島市章の成り立ち～

昭和16年4月29日、三島町と錦田村が合併し、人口が3万人を超える、県下で6番目の都市、三島市が誕生しました。

市章はその時制定されたもので、八角形の三嶋大社の紋章と富士山を組み合わせ、また中央の三線は三島を表す漢数字の「三」と、水の流れを組み合わせで図案化したものです。

